公務員試験合格体験記

J201059　北谷　爽瑠

・合格した職種

→青森地方検察庁（国家一般職行政東北地域）、弘前市（行政）

・大学4年間のうち、各学年で公務員試験に向けてどのような勉強をしていたか

→1年生：特に公務員試験のための勉強はしていませんでした。しかし、法学検定試験ベーシックの勉強には力を入れていて、公務員試験の専門科目の出題内容とも被っているため、土台作りになったと考えています。

　2年生：大学の公務員試験対策の講義を履修したり、LECの2年生公務員講座を活用して勉強していました。主に実力を伸ばすために時間がかかる、数的処理などの教養科目を中心に勉強しました。

　3年生：2年次と同じように、公務員試験対策の講義と、LECの公務員対策講座を活用しました。LECの講座には対面の講義と、先取り学習ができるWEB講義があったので、5月からは対面講義の前に必ずWEB講義を受けるように意識して勉強していました。そうすることで、対面講義を復習として活用でき、余裕を持った学習計画が立てられると実感しました。

　4年生：4年生の4月くらいでLECの講義が終わるため、そこからはひたすらLECのテキストと過去問を交互に繰り返して勉強していました。筆記試験が終わってすぐ、6月下旬からは面接対策のテキストを読むなど、筆記試験で燃え尽きないように気持ちを入れ替えて面接対策をしました。

・公務員試験を受ける上で役に立った大学の講義

→まずは公務員対策特別演習です。教養科目は、安定した得点を取るために1年以上かかると聞いていたので、2年生の段階から早めに講義で学ぶことができて役立ちました。また、専門科目の勉強としては、民法や行政法、経済学などの講義が役立ちました。専門科目では、馴染みのない用語を多く覚える必要がありますが、事前に大学の講義で学んでいたり、言葉だけでも聞いていることで、身の入り方が変わってくると思います。

・勉強がつらい時期があったか。またそれをどう乗り越えたか。

→3年生の夏休みごろは、公務員試験の勉強だけでなく、志望先のインターンシップの準備や、資格試験の勉強の時期と重なったこともあり、大変な時期でした。どれか一つに集中したいのにできないという焦りなどから、どうしていいかわからなくなった時もありましたが、親や友人に相談したり、優先順位を考えて計画的に一つ一つやっていくことで乗り越えました。

・平均して1日何時間くらい勉強したか。また、筆記試験前は1日何時間くらい勉強した

か。

→3年次の1年間を平均すると、1日6時間程度になると思います。特に、3年次の2月から筆記試験本番前は1日10時間程度やっていました。

・役に立った教材

→LECの講義で扱ったテキストや過去問題集です。問題ごとに頻出度や重要なところが記載されていて、何を優先的にやっていけばいいかわかりやすく役立ちました。また、公務員試験の時事対策としては、『最強の時事』（公務員のライト）という書籍が役立ちました。他の時事対策のテキストにはない、スマホアプリを使って問題演習ができるというところが魅力だと思います。公務員試験の勉強を通して、問題演習をやることで内容が覚えやすいということを実感したため、隙間時間を使ってアプリで問題を解けるというのは非常に役立ちました。

・大学時代もっと取り組んでおけばよかった、勉強しておけばよかったと思うこと

→取り組んでおけばよかったと思ったことは、ボランティア活動です。私自身、ボランティア活動の経験はなかったのですが、どの職種の面接でも必ずボランティア経験の有無について問われました。その際は、これまで大学や資格の勉強に力を入れてきたため、今後はボランティア活動に力を入れていきたいと答えるとともに、一つ気になっていた活動の内容を具体的に話しました。実際の面接の手ごたえは悪くはありませんでしたが、やはりボランティア経験のある方と比べると見劣りすると思います。面接時に自分が答えづらい質問をなるべく減らすために、ボランティア活動はやっておくべきだったと思いました。

・面接の内容

→人事院面接：なぜ国家公務員を目指すのか、公務員に興味を持ったきっかけは何か、大学で力を入れていたことは何か、趣味は何かといった一般的な質問が多かったです。事前に記入する面接カードに沿って行われるので、自分で書いた内容は少なくとも自分の言葉で説明できるようにしておく必要があると思います。時間も一人当たり15分程度と短く、落とすための面接というよりは、国家公務員としてふさわしくない人を見極めるための面接という印象でした。

　官庁訪問：人事院面接のような一般的な質問内容に加えて、志望官庁の仕事を説明できるか、最近関心がある刑事事件は何か、大変な仕事と楽な仕事を同時にやる必要がある時はどちらからやるかといった質問がされました。これも、基本的には面接カードに沿った質問がされますが、自分が意図していなかった質問がされることも多くありました。また、面接官数人の中に一人は圧迫面接官役の方がいると思いました。一人30分程度で行われ、相当数の質問がされるため、どの質問にも焦らないで答えられるような準備が必要だと実感しました。官庁訪問での面接のやり方や回数は、各官庁で異なるため、志望する官庁の面接体験記等を読んでおくといいと思います。

　市役所：志望動機、大学で力を注いできたことは何か、インターンシップに参加した感想はあるか、災害時に家族よりも優先して働く覚悟はあるかなどの質問がされました。質問内容は比較的答えやすいものが多く、私が受けた職種の中で最も和やかな雰囲気で面接が行われました。私が受けた自治体は、10分程度の面接を1日に2回行うというものでしたが、面接のやり方は各自治体によって異なるため、自分が受ける自治体の情報があるのであれば、確認しておくと当日安心して臨めると思います。

・面接対策としてやっておいた方が良いと感じたこと

→私が面接対策として一番力を入れていたことは、実際の質問を想定した質問・回答集を作ることです。LECの面接質問集に乗っているような典型的な質問は前提として、それらに自分が答えたときに、さらに問われたり、つっ込まれるであろう質問まで考えました。しかし、あらかじめ考えた回答を、一言一句同じ言葉で表現するのは機械的な感じがして、面接の場ではよい印象を与えることができないと思います。そのため、質問に対する回答を大まかには用意しますが、その時その時で自分が考えた言葉で話せるよう練習することが大切だと思います。また、面接練習は何度も同じ方とやるよりも、複数の方と行うことで、違った質問や雰囲気を感じれるため練習になったと実感しました。私の場合は、LECや大学のキャリア支援課、ハローワークで計10回程度の面接練習を行いました。

・その他公務員合格のために大事だと思ったこと

→大事だと思うことは、試験慣れのために他の自治体や職種の試験を受けることです。私も本命試験の前に複数の試験を受けていましたが、試験をやるたびに緊張がほぐれていった感じがありました。特に、面接試験では筆記試験以上に場数を踏む必要があると思っていて、私も一番初めに受けた面接では緊張してうまく話せなかったのですが、一度経験したことで、以降の面接では緊張しすぎることなく臨むことができました。また、私もそうだったように、業務説明会や面接を受けることで志望先の順位が変わることもあると思います。そういった中で、複数の試験種を受けて内定を得ることは、将来の選択の可能性を残して、後悔のない就活にするという意味でも大事だと思いました。

・就活についてのアドバイス、最後に後輩たちへメッセージ

→私が就活の中で苦労したのは、スケジュール管理です。複数の試験種を受けたことから、それぞれの試験のための準備時間や、道外での試験のための移動日時など考えなければならないことが多く、頭を抱えた時期もありました。そのため、公務員試験では試験勉強だけでなく、早めにこれからの予定を立てて、余裕を持った行動ができるように意識していくといいと思います。公務員試験は筆記試験や面接対策など準備期間が非常に長く、モチベーションを維持していくのも大変だと思います。しかし、自分の一生を左右するものだと思うので、適度に休憩しながらも、後悔なく最後まで試験を乗り越えることができるように頑張ってください。応援しています。